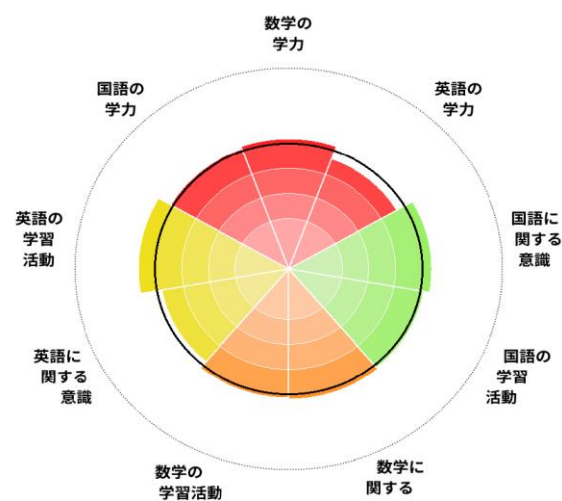


令和8年度 全国学力・学習状況調査における筑西市立中学校等の結果について

1 教科を中心とした学力・学習状況（全国基準）



【国語の学力・学習活動について】

◇気持ちがより伝わるように、表現の効果を考えて描写するすることはできている。

◆語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることに課題がある。

→ 今後は、語句に着目し、その語句が文や段落においてどのような役割を果たしているか考える活動を取り入れることで、文脈における語句の意味を、具体的かつ個別的に捉えられるように指導していく。

【数学の学力・学習活動について】

◇データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することは、全国よりもできている。

◆図形領域全般に課題があり、特に2直線が平行になるための条件を理解できていない。

→ 今後は、2直線が平行であるかどうかを判断する活動を多く取り入れることで、2直線が平行になるための条件（同位角または錯角が等しい）についての理解を深めることができるように指導していく。

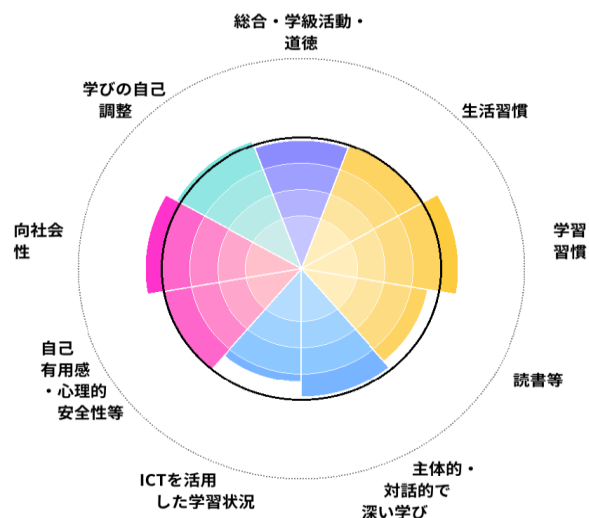
【英語の学力・学習活動について】

◇日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ることはできている。

◆社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことに課題がある。

→ 今後は、文章全体を通して読み、文と文との関係を捉え、段落内の情報と情報との関係、段落と段落との関係などの文章構成を理解させるとともに、書き手が最も伝えたいことだと判断した根拠を話し合う活動を設定し、文章の要点を捉えることができるように指導していく。

2 その他の学力・学習状況（全国基準）



【生活習慣、学習習慣、ICTを活用した学習状況について】

・平日にSNS利用や動画視聴などの時間が1日あたり「3時間以上」と答えた生徒は47.0%（全国比－2.6ポイント）である一方で、学校の授業時間以外に勉強する時間が1日あたり「2時間以上」と答えた生徒は28.1%（全国比－2.0ポイント）であった。

・授業で、PC・タブレットなどのICT機器を「ほぼ毎日」活用したと答えた生徒の割合は41.4%（全国比－13.7ポイント）であり、ICT機器で文章やプレゼンテーション（発表のスライド）を作成したり、情報を整理したりすることができると答えた生徒の割合も、全国を大きく下回っている。

・SNSや動画視聴等の利用時間が長い生徒ほど各教科の正答率・スコアが低く、ICTを活用する自信がある生徒ほど各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られることから、今後は、ICTを受動的に活用するにとどまらず、主体的・能動的に活用できるよう、授業等を通じて情報活用能力の育成に努めていく。

【自己有用感・心理的安全性等について】

・約8～9割の生徒が、「自分にはよいところがある」「先生は自分のよいところを認めてくれている」「友達関係に満足している」と思っているが、全国と比較すると若干少ない傾向にある。

・今後は、すべての子どもが「自分らしく輝ける」安心安全な居場所としての学校づくりに、より一層、努めていく。